



小柴 孝

奈良工業高等専門学校 学生主事

「ボランティア」と言えば、ボランティア活動に携わる人のことを指していますが、最近、このボランティア活動を推進する動きが、活発になっています。

ボランティア活動と言えば、無償労働、奉仕活動といったイメージが強いですが、最も大事なことは、自らの意思(自発的)により参加することにあります。また、活動を通して、社会性や創造性を育むことができることから、高校や大学では積極的にその参加を促しています(高専機構も中期計画の項目の一つに、ボランティア活動の推進を挙げています)。特に、最近の話題として、国際化に伴い、秋入学への移行を検討する大学が増えていますが、高校卒業から大学入学までの約半年間(ギャップターム)を利用して、ボランティア活動等への参加を勧めることを案として含めていることからみても、学生の皆さんのボランティア活動への参加は、今後更に推進されると思われます。それでは、ボランティア活動としてはどのようなものがあるかと見渡してみると、身近には、環境活動(地域清掃活動等)や社会福祉活動といったものから、国際交流・協力など、現在社会が抱えている諸問題に関わること全てと言ってもよいくらい多岐にわたり、随時、その募集が行われています。なかでも、昨年度、未曾有の被害をもたらした東日本大震災の復旧・復興支援を目的とした災害ボランティア(東北3県で、延べ110万人以上参加)や、今年のロンドンオリンピックにおいて競技運営を支えたスポーツボランティア(約7万人参

加)などは、非常に大きな規模で組織的に取り組まれています。また、活動内容により、有資格(ライセンス)や経験を参加条件とするもの、さらに、応募者の中から数回におよぶ選考試験等を課して参加者を決定するなど、活動成果を重視して取り組んでいるものもあります。

このように多種多様なボランティア活動ですが、そこに参加する人たちに共通することは、自発的に何か人や社会に対し貢献できることを考え、その活動を継続していることであると思います。ひとりひとり、参加の動機は、自己啓発、自己実現といったこともあるでしょうが、支援を求める人や社会のニーズを感じ取り、共により良い社会を実現しようとする心がボランティア活動へと発展させている気がします。昨今、自分のためだけという利己的な人が増え、その影響が、社会全般に広がりつつあるとされていますが、一人一人の心のどこかに、学校や地域、さらには社会のためといった利他的な考えは持っているものと思います。

学生の皆さんの多くは、学校で学んだ知識を基に、卒業後、技術者あるいは研究者としてより良い製品を社会に輩出し、産業界に貢献するものと思います。そう言った意味では、仕事を通して社会に貢献することになります。本当のところはどうでしょうか。もしかすると、先輩や上司からの命令に従い、与えられた課題をこなすだけ、さらには給料分だけ働けば良いと思っている人がいるかもしれません。これでは、社会に貢献しているとは言いがたく、何ら創造されるものはないと思います。自らが活動の場を求め、そこで見た、感じたことから課題を見つけ、それを解決するためにアイデアを出し、具体化する。こういったことの積み重ねで、新しいものが生み出され、先々、社会貢献へと発展するのではないのでしょうか。世のため、人のためといった取り組みは、いずれ自分自身にも還ってくることです。学生の皆さんは、是非、このことを考えてもらいたいと思います。そのためにも、比較的、時間の都合が付きやすい学生生活を利用して、ボランティア活動に参加し、多くのことを学び、何か感じるものを見つけてください。当然、感じることは個々により違いますが、それは、必ず、自己開発や自己成長につながり、将来、技術者、研究者として活躍するための大きな糧となるのではないのでしょうか。

